



伊藤 文博
議 員
交流人口の拡大による
地域活性化について

交流人口の拡大による
地域活性化について

質 問

ジオパークを核とした交流人口拡大策には、お客様の視線での対応が求められる。あらゆる立場の方が前向きに

取り組んでいるところであるが、一般の市民の方には今一つ効果を感じるところまで達していないように思われる。今後の方向性について伺う。

また、糸魚川は「食の宝庫」であると思うし、「食」は大きなポイントであると考え、どう売り出し、どう交流人



田中 立一
議 員
ジオパークと観光の
取り組みについて

ジオパークと観光の
取り組みについて

質 問

世界ジオパーク再認定審査の際に指摘された糸魚川ジオパークの課題は。また、地域の企画力や住民連携が求めら

れる「着地型観光」について、当市の取組状況はどうか。

市長答弁

糸魚川ジオパークの再認定については、現地審査時にくつかアドバイスがあったが、回答の提出を求められるような課題はなかった。

口の拡大に結びつけるのか。
一方、駅周辺の活性化も大きな課題であり、市の玄関口として活性化を図るためには、駅周辺に明確な機能を持たせる必要があると思う。駅前商店街は、各地家主の所有であるが、中心市街地という点では市民共通の財産でもあり、どのように活性化を図っていくか、その考え方を伺う。

市長答弁

ジオパークを活用した効果的な事業展開を図るため、ジオパーク戦略プロジェクトを着地型観光については、現在、「翠の里 糸魚川ツーリズム推進協議会」が主体となつて体験事業等に取り組んでおり、また、交流観光の推進に一番重要な役割を担う立場である観光協会の組織強化を進めているところである。



世界ジオパーク再認定を祝う式典 (9月9日)

策定し、取り組みを進めているが、その中の「受入態勢整備プロジェクト」を地道に取り組むことにより、市民一人ひとりがジオパークの担い手となつてもらえるよう進めていきたい。

「糸魚川の食」については、交流人口拡大の誘客ポイントであり、ブラック焼そばやジャオ井など民間事業者と協働して、魅力的な食となるような活動を引き続き進めていく。

駅周辺の活性化については、駅北の広域商店街と商工会議所、市による駅北賑わいづくりの懇談会を今年2月から設けているほか、広域商店街におい

農業について

質 問

当地域の加工用米、米粉の需要及び供給状況について伺う。

また、県では「園芸ブランド確立推進運動」に取り組んでいるが、当地の園芸作物の取組状況はどうか。

市長答弁

加工用米は全国的な需要があるが、市内では酒米、もち米以外の作付けは行われていない。米粉は、市内の製菓業者や

でも独自に勉強会を実施している。また、駅前銀座商店街組合では、駅北の各商店が空き店舗の活用を含めた賑わいづくりの検討に取り組んでおり、市及び商工会議所も支援を行っている。



駅前通りのようす (10月14日 鉄道祭り)

小中学校・保育園の給食での利用のほか、JAひすいで販売されている。

園芸振興については、作物の生産や加工を組み合わせた複合化を目標に、主要品目の市場出荷や地元消費の拡大、安定生産に取り組んでいる。また、越の丸なす等、ブランド力のある園芸作物の生産・販売を支援していく。

《その他質問項目》

・北陸新幹線開業と並行在来線について